

就労移行者の現状把握からみえてきたもの

○藤本扶美子¹⁾ 植木達也²⁾ 遠藤麻子³⁾ 矢萩嘉子³⁾
加納美幸³⁾ 蒲原龍⁴⁾ 齊藤一朗⁵⁾
心理士¹⁾ 作業療法士²⁾ 看護師³⁾ 精神保健福祉士⁴⁾ 医師⁵⁾

1. はじめに

当デイケアでは長期目標を就労としている利用者が全体の5割を占めているが、就労移行につながるケースは2割程度である。そこで就労移行者の現状を把握することで、今後の就労支援に役立てることが出来ないかと考え、過去3年間の就労移行者について就労形態別にデータ分析を行った。その結果を報告する。

2. 調査期間および対象

2017年4月～2020年3月までの過去3年間、2階デイケアを利用し就労移行につながった55名(内デイケア併用者22名含む)を対象に就労形態別に疾患の割合、移行先の割合、利用期間、プログラム参加数、他機関の利用数について検討を行った。

3. 結果 疾患の割合

	一般就労	就労継続支援 A型事業所	就労継続支援 B型事業所	計
統合失調症	2	3	20	25
気分障害	8	6	5	18
その他	5	1	5	11
計	15	10	30	55

単位：人

3. 結果 利用期間

	一般就労	就労継続支援 A型事業所	就労継続支援 B型事業所	計
1年未満	7	3	6	16
1～2年	4	2	6	12
2～3年	0	2	3	5
3～4年	1	1	3	5
4～5年	1	0	2	3
5年以上	2	2	10	14

単位：人

3. 結果 プログラム参加

	一般就労	就労継続支援 A型事業所	就労継続支援 B型事業所	計
疾病教育	5	1	2	8
対人技能	5	7	12	24
就労プログラム	4	7	11	22
趣味活動	11	7	23	36
運動	11	6	14	31

単位：人

3. 結果 他機関の利用

	一般就労	就労継続支援 A型事業所	就労継続支援 B型事業所	計
連携モデル 事業	0	5	0	5
相談室	0	1	3	4

単位：人

4. 結果 雇用形態別の特徴(1)

1. 一般就労：

- ・気分障害が多く、2年以内の移行者が11名(7割)を占める。
- ・休職者は5名おり半年程度で復職を果たしている。(内2名は統合失調症)
- ・就労スキルを備えている者が多く、趣味や運動を中心に活動。

2. 就労継続支援A型事業所：

- ・気分障害が多く、3年以内の移行者が7名(7割)を占める。
- ・プログラムの参加率が高い。
- ・他機関(連携モデル事業や相談室)の利用者が多くみられた。
- ・統合失調症者はB型作業所等を併用し、A型へのステップアップを果たしている。

4. 結果 雇用形態別の特徴(2)

3. 就労継続支援B型事業所：

- ・ 就労移行者の半数がB型事業所に移行している。
- ・ 統合失調症が20名(7割)を占めている。
- ・ 利用期間が短期と長期に分かれる。
- ・ 長期利用者(5年以上)は移行後もデイケアを併用し、就労の継続につながっている。

4. 考察 まとめ

- 雇用形態毎に移行しやすい疾患があり、移行先を考える際の参考となる。
- 2年以内の移行者が多く、就労の準備やモチベーションの維持に効果的な期間があるのではないか。
- 疾患教育の参加の低さが目立ったが、症状の安定から必要性の関心度が低くなったと思われる。
- A型移行者の経過から、他機関との連携を積極的に行うことにより、就労移行をより可能とする。